



取扱説明書

耐衝撃型スプリンクラーヘッド

YSFP26-50-72 1種 小区画

YSFP26-50-96 1種 小区画

YSFP26-30-72 1種 水道連結

YSFP26-30-96 1種 水道連結

YSFP26-43-72 1種 水道連結

YSFP26-43-96 1種 水道連結

この度は、弊社耐衝撃型スプリンクラーヘッドをご採用いただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、スプリンクラーヘッド(以下、ヘッドともいいます)を正確かつ安全にご使用頂くための製品の取扱い方と注意事項などにつき説明いたしております。スプリンクラーヘッドをご使用頂く前に本書全部をよくお読みくださいますと、ご理解の後、ご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

安全と確実な防災活動のためのご注意

安全のために、必ずお守りください。

ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や家財・施設の損害に結びつくものをまとめて記載しています。安全と確実な防災活動に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。防災活動に関わるすべての人がお読みになった後は、実際に管理を行われる方が、いつでも見られる場所に必ず保管してください。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いを行った場合、誤作動や作動支障により人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いを行った場合、誤作動により人が負傷を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

(1)すべての防災設備に関わる点検業務

防災設備の機能を維持し、万一の際には十分に機能を発揮するために、整備及び点検を実施しなければなりません。それらの業務は、消防設備士または消防設備点検資格者といった有資格者に限られ、定期的な点検が義務付けられています。それら点検の方法は、二つに分けられています。

●機器点検(点検期間=6カ月ごと)

- ・消防用設備等に附置される非常電源(自家発電設備に限る)や動力消防ポンプ等の設備が、正常に作動することを確認します。
- ・消防用設備機器の配置の適正、また損傷などを、主にその外観から判断し、点検基準によって確認します。
- ・消防用設備機器の正常性を、定められた基準に従い、簡単な操作によるチェックや、外観からの判別によって確認します。

●総合点検(点検期間=年に1回)

- ・消防用設備の種類に応じて定められた基準によって、消防用設備機器の全部あるいは一部を動作させて、総合的な機能を確認します。

防災設備の品質を保ち、火災時に確実に作動させるために、必ず定期点検義務はお守りください。

(2)すべての防災設備に関わる注意事項

警告

- ・取扱説明書を十分理解すると共に正しい取扱を厳守し、緊急時の使用に備えてください。緊急時に消火活動、停止活動及び避難活動等の対応が容易になります。
- ・定期点検制度に基づき、有資格者(消防設備士及び消防設備点検資格者)による定期点検が必要です。有資格者による定期点検を行わなかった場合は、正常な機能維持ができず緊急時の消火作業に支障をきたす可能性があります。
- ・防災設備を使用した場合は専門の業者に依頼のうえ点検、整備を受けてください。点検・整備を受けない場合、緊急時に正常な消火活動ができません。

-
- 必ずこの取扱説明書を熟読し、理解してからご使用くださるようお願いいたします。
 - この取扱説明書は設置後の維持管理にも必要です。本書はいつでも見られる場所に大切に保管しておいてください。
 - なお、スプリンクラーヘッドは消防法の適用下にあります。構造、性能はもちろん、設置対象物、設置条件、施工、取扱い及び、保守管理についても、その適用を受けます。

目次

CONTENTS

1.製品受け入れ時のお願い	3
2.スプリンクラーヘッドの保管について	3
3.スプリンクラーヘッドの取り付けについて	4
4.スプリンクラーヘッドの取扱い・設置・維持管理上の注意	9
5.製品仕様	11
YSFP 26-50-72	11
YSFP 26-50-96	12
YSFP 26-30-72	13
YSFP 26-30-96	14
YSFP 26-43-72	15
YSFP 26-43-96	16

1・製品受け入れ時のお願い

(1)製品上の品種標示及び保護キャップの色を、ご確認ください。

ヘッドの下面の感熱板上には品種を刻印標示いたしております。又、ヘッドに被せております樹脂製の保護キャップは品種別に着色いたしております。刻印標示と保護キャップの色など詳細は下記「(2)スプリンクラーヘッドの品種標示について」をご覧ください。

2・スプリンクラーヘッドの保管について

(1)スプリンクラーヘッドは、温度39℃以上の環境下での保管、及び輸送は避けてください。



注 意

高温環境下での保管及び輸送は、ヘッドのヒューズ部の劣化が促進され、ヘッドの寿命が著しく短くなって、漏水や不時放水の原因になります。

(2)スプリンクラーヘッドは、39℃以上の高温並びに多湿、振動及び腐食性ガスなどを避け、直射日光の当たらない場所に保管してください。また、子供の手の届く所に置かないでください。

3・スプリンクラーヘッドの取り付けについて

(1)ヘッドをスプリンクラー設備等の消火設備以外の目的に使用しないでください。

(2)ヘッドは取り付け場所の気温に応じた標示温度のものを使用してください。

ヘッド取り付け場所で予想される最高気温に応じた標示温度のヘッドを取り付けてください。



注 意

ヘッドは予想される最高気温を超える環境下では、ヘッドのヒューズ部の劣化が促進され、寿命が著しく短くなって、漏水や不時放水の原因になります。

予想される最高気温	ヘッドの標示温度
38℃	72℃
63℃	96℃

(3)配管内はフラッシングをしてください。

スプリンクラー配管内は十分なフラッシングをして、ゴミや異物を洗い流し、取り除いてからヘッドを取り付けてください。



注 意

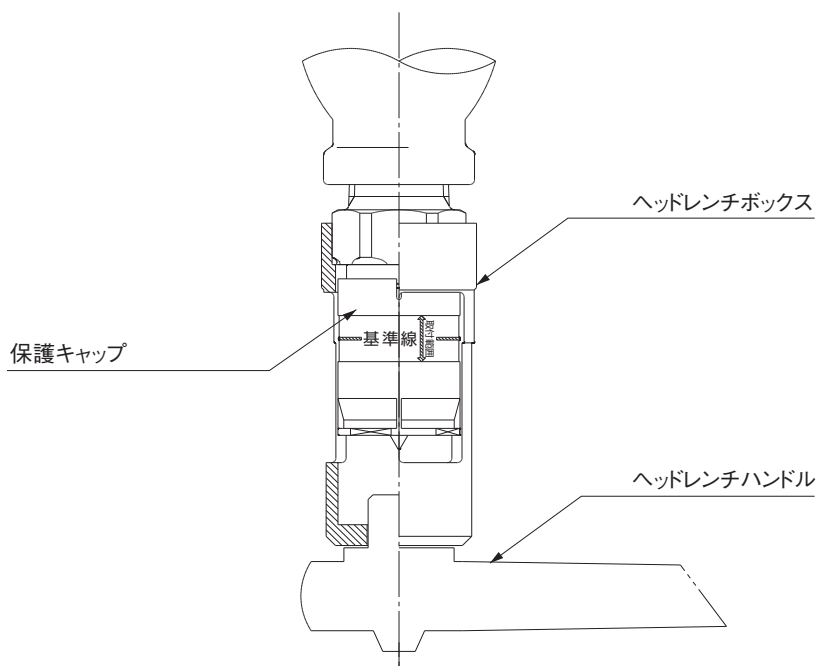
スプリンクラーヘッドに異物が詰まった場合、散水障害などを引き起こし、火災時の消火性能を著しく阻害します。

(4)ヘッドの取付ネジには、シール措置を施してください。

ヘッドの取付ネジ(JIS、R1/2)部には、前もってシールテープを巻き付けるなど、適切なネジ部のシール措置を行った後、配管側のネジ部に締め付けてください。

(5)ヘッドの取り付け及び取り外しは必ず専用のヘッドレンチセットをお使いください。

配管へのヘッド取り付けの際は、ヘッドに保護キャップの付いたまま専用の「ヘッドレンチセット」を使用して手で締め付けてください。

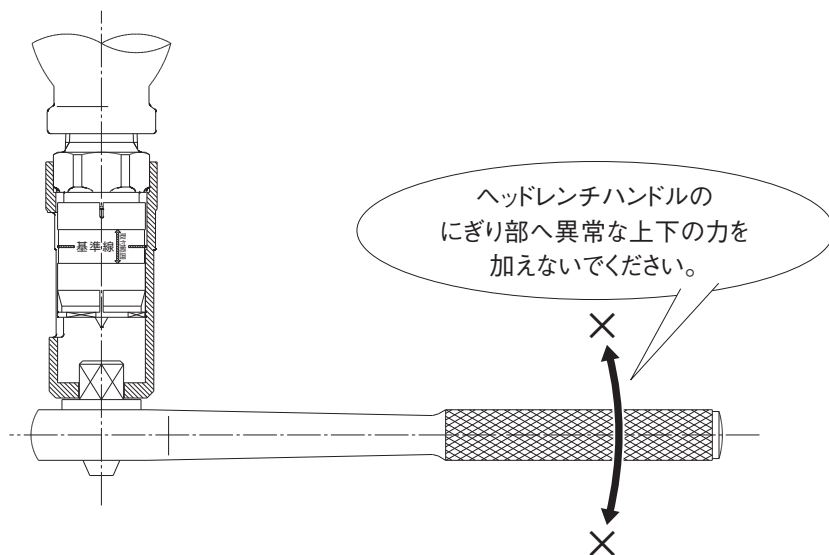


⚠ 注意

専用のヘッドレンチセット以外のものを使用しますと、ヘッドに異常な力が加わり、内部機構に狂いが生じ、不作動、水漏れ及び不時放水の原因になります。また、インパクトレンチなどの機械締めは避けてください。

(6)「ヘッドレンチハンドル」をこじないように注意してヘッドを締め付けてください。

「ヘッドレンチハンドル」にはヘッドの締め付けに要する回転力(トルク)のみを加えるようにしてください。
たとえば、「ヘッドレンチハンドル」のにぎり部に、ヘッドをこじめるような上下の異常な力を加えないでください。



⚠ 注意

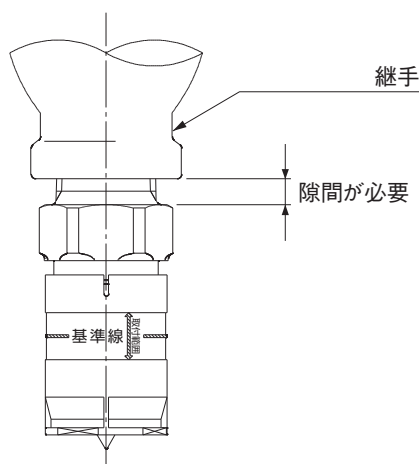
「ヘッドレンチハンドル」のにぎり部にヘッドをこじめるような上下の力を加えますと、ヘッドが変形したり不時放水の原因になります。

(7)スプリンクラーヘッドの締め過ぎには注意してください。

ヘッドのねじ込みトルクは約20～30N・mです。

ヘッドを配管に取り付ける際、ヘッドが継手に当たるような無理な締め付けはしないでください。

ヘッドと継手の間には、ある程度の隙間が必要です。



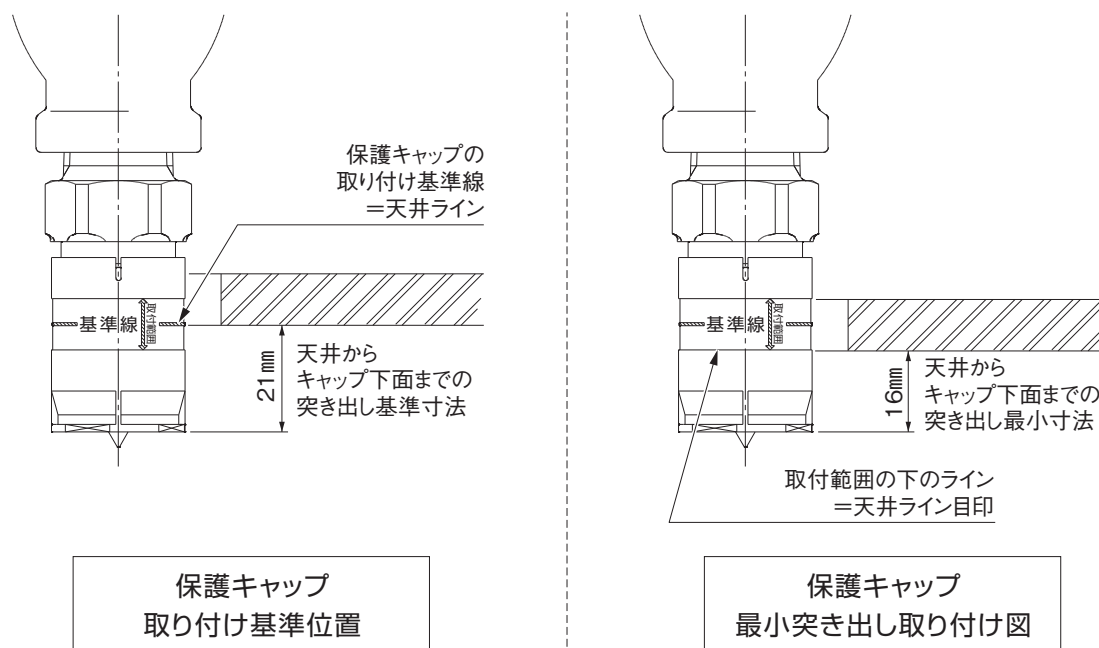
⚠ 注意

ヘッドの無理な締め付けは、ヘッドの内部機構に狂いが生じ作動不良の原因になります。

(8)ヘッドを取り付ける部分が堅固な状態になっていなければ、ヘッドの取り付けや増し締めは行わないでください。

(9)ヘッドと天井面の出入り寸法にご注意ください。

ヘッドの取り付け基準位置は「保護キャップ」の基準線を天井ボード下面に合わせた位置となります。ヘッドを基準位置に取り付けた場合、天井ボード下面から「保護キャップ」の下面までの寸法は約21mmとなります。ヘッドは、「保護キャップ」の取り付け範囲(基準線から上下5mm)内に取り付けてください。



取付範囲の下ラインが天井より奥に入らないように注意して取り付けてください。

⚠ 注意

ヘッドが天井面からの突き出し最小寸法より奥に取り付けられますと、火災熱の感知の遅れ、散水障害などを引き起こし、火災時の消火性能を著しく阻害します。

(10)天井板にはヘッドを通す穴をあけてください。

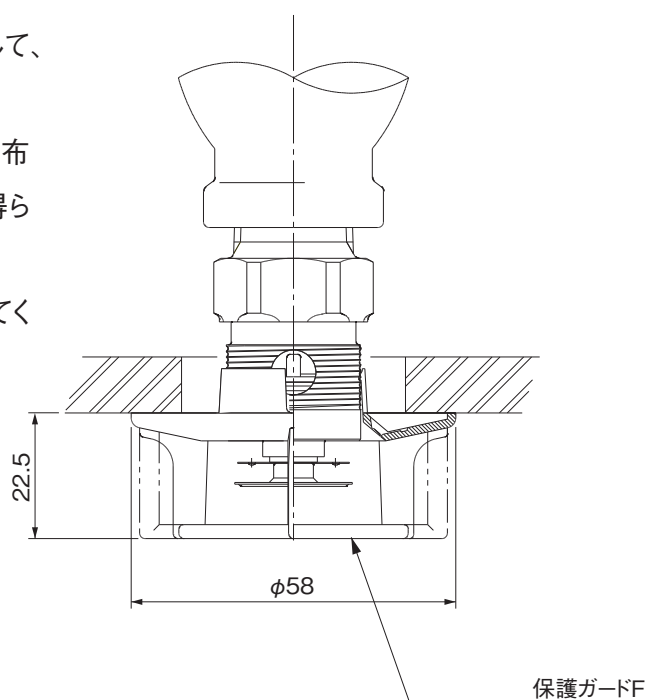
天井板にはφ34～φ41の穴をあけてヘッドを通してください。天井穴はヘッドに干渉しないように穴位置を正確に決めて、穴あけをしてください。

(11)保護ガードを取り付けてください。

天井工事完了後は、保護キャップをヘッドから外して、「保護ガードF」を取り付けてください。

保護キャップを取り外さずに使用すると、散水分布に支障をきたし、火災時に所定の消火性能が得られないおそれがあります。

天井工事完了後は必ず保護キャップを取り外してください。



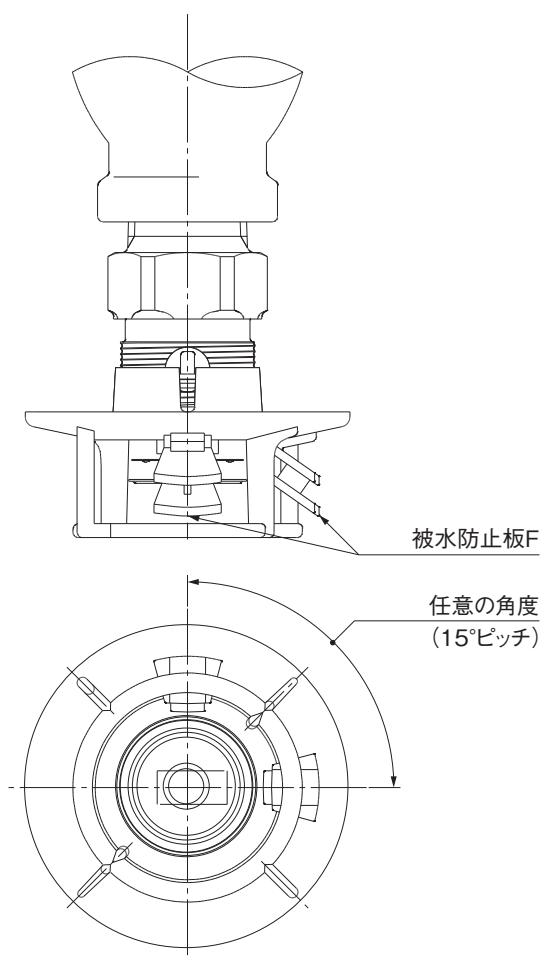
(12)被水防止板を用意しております。

ヘッドを設置の際、対向するヘッドの離間距離が3m以下になる場合は、「被水防止板F」を使用してください。「被水防止板F」は、「保護ガードF」に穴加工後、取り付けてください。

取り付けについての詳細は、「被水防止板F」の取扱説明書をご覧ください。

「被水防止板F」は任意の個数のヘッドに対し、任意の角度(15°ピッチ)で取り付けられるようになっています。尚、「被水防止板F」を使用の場合でも、離間距離が1m以下とならないようにしてください。

「被水防止板F」は、ヘッドが放水した際、隣接ヘッドへの被水を避けて熱感知の遅れのないようにしたものです。



4・スプリンクラーヘッドの取扱い・設置・維持管理上の注意

(1)ヘッドは大切に扱ってください。

ヘッドに物をぶつけたり、ぶら下げたり、突いたりしないでください。

変形や外傷のあるヘッドは、使用しないでください。

注 意

当該スプリンクラーヘッドは、耐衝撃性に優れた耐衝撃型スプリンクラーヘッドですが、あくまでも不可抗力などの外部衝撃による漏水や不時放水に対処するものです。

変形や外傷のあるヘッドは、火災時に作動の遅れや作動不能の原因となる場合があります。

保守点検時などで変形や外傷のあるヘッドを発見した際は、即新品のヘッドと取り替えていただきたくお願いいたします。

(2)検定合格証票ははぎ取らないでください。

ヘッド感熱板表面に貼り付けている(検)シールは、消防法によって義務づけられた、スプリンクラーヘッドの型式適合検定合格証票です。剥がさず付けたままにしておいてください。

(3)屋内プールなどの塩素ガス雰囲気的环境下での使用は避けてください。

注 意

塩素ガスはヘッドのステンレス製の部品に応力腐食割れを発生させて、漏水や誤放水の原因になります。

(4)腐食性雰囲気での使用はご注意ください。

注 意

腐食性雰囲気にヘッドがさらされる場所では、早期に腐食(緑青－緑色の錆)が発生する場合があります。

(5)腐食(緑青－緑色の錆)が発生したヘッドは、新しい物と取り替えてください。

注 意

腐食(緑青－緑色の錆)が発生したヘッドは、火災時に作動の遅れや作動不能の原因となる場合があります。

(6)次のいずれかに該当するヘッドは使用せず、新品と交換してください。

- ・漏水が認められるもの
- ・変形しているもの
- ・腐食(緑青、錆等)が認められるもの
- ・外傷を有するもの
- ・塗料その他異物が付着したもの
- ・その他正常な性能が維持できないおそれがあるもの

(7)スプリンクラー配管の水は水道水を使用してください。

貯水槽及び配管内の水は水道水を使用し、酸やアルカリ、塩分などを含んだ腐食性のある水及び異物の混入した水は使用しないでください。

(8)配管内の水は凍結しないようにご注意ください。

冬期厳寒時には、連続的な暖房や保温など適切な対策を取ってください。



配管内の水が凍結しますと、ヘッドが破壊されて誤放水の事故が発生します。

(9)スプリンクラーヘッドにライターなどの火を近づけないでください。又アイロン、ハンダゴテなどで加熱をしないでください。



加熱しますと即、作動放水します。

(10)ヘッドには塗装や着色をしたり粘着テープ等貼付けないでください。



ヘッドの作動性能が損なわれます。

(11)ヘッドの掃除、交換は専門業者又は弊社にご相談ください。

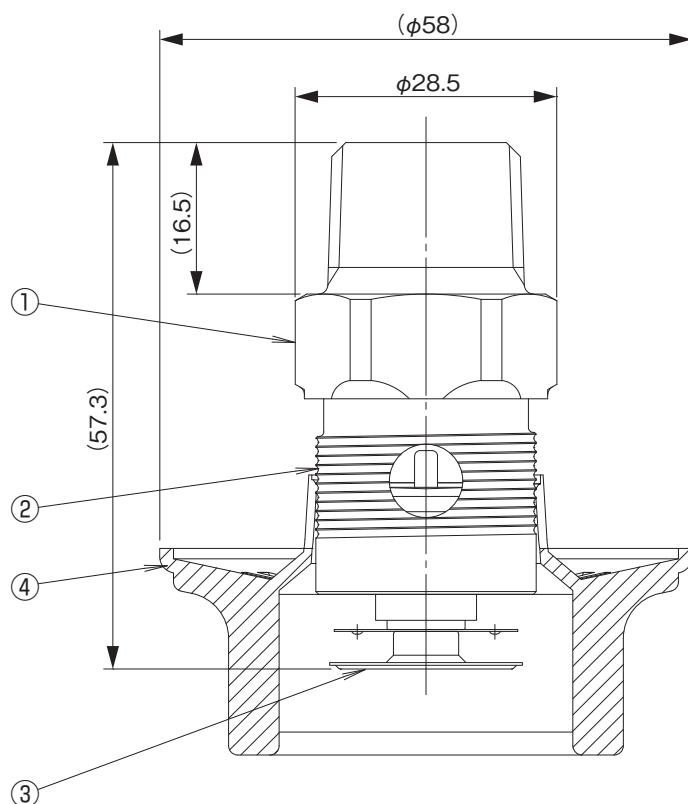
(12)ヘッドの作動時には分解した部品が飛散落下します。又、多量の水が放水されますので、ご注意ください。

分解した部品は調査試料とする場合がありますので、回収してください。

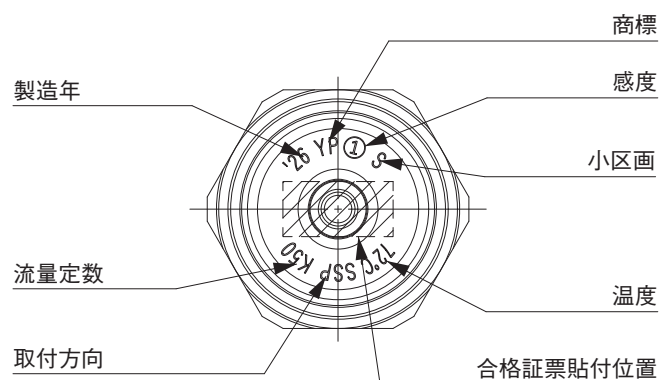
(13)一度作動したヘッドは再使用できません。作動後は必ず新品のヘッドと交換してください。

(14)ヘッドの部品の一部には鉛やカドミウム等の合金が使用されています。ヘッドを廃棄する時は必ず専門業者又は弊社にご相談ください。

(単位:mm)

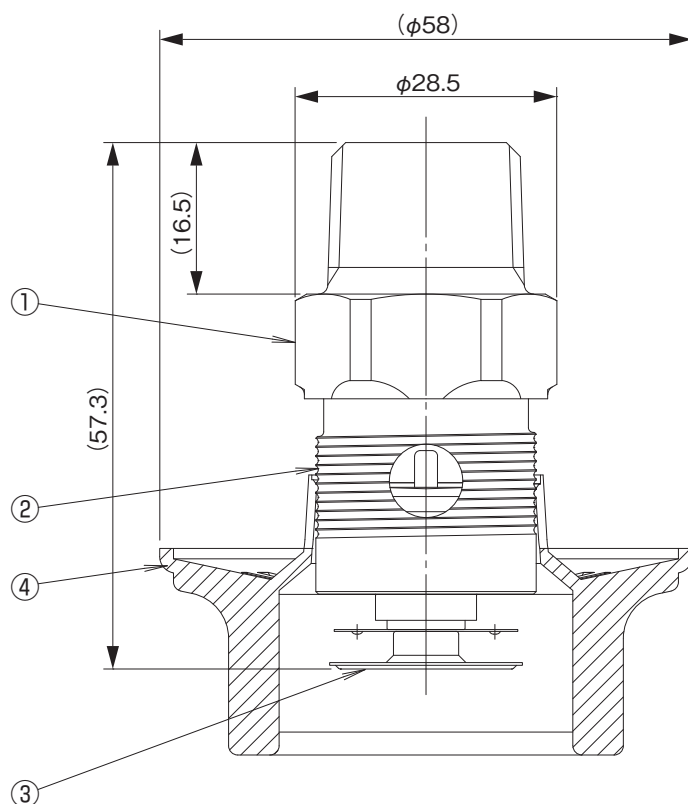


番号	部 品 名
①	本 体
②	フ レ ー ム
③	感 熱 板
④	保 護 ガ ー ド F

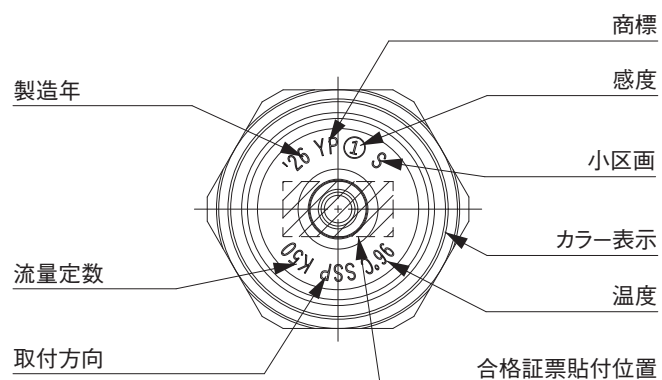


型 式	YSFP 26-50-72
型 式 番 号	ス第2025～3号
感 知 区 分	1種
標 示 温 度	72℃
流 量 定 数	K50
取 付 方 向	下向き
カ ラ ー 表 示	無色
最 高 周 囲 温 度	39℃未満
防 護 範 囲	r = 2.6m 以下かつ 13m ² 以下

(単位:mm)



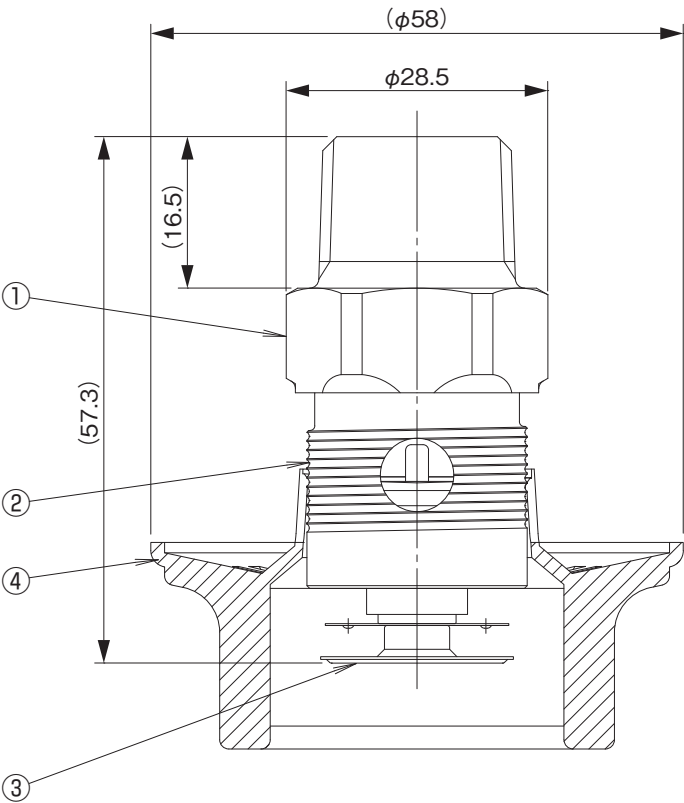
番号	部 品 名
①	本 体
②	フ レ ー ム
③	感 熱 板
④	保 護 ガ ー ド F



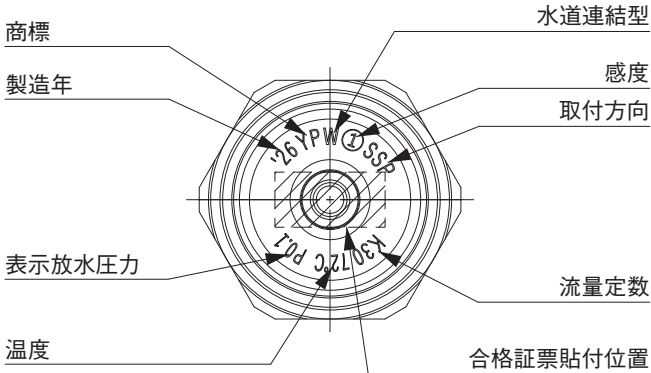
型 式	YSFP 26-50-96
型 式 番 号	ス第2025～4号
感 知 区 分	1種
標 示 温 度	96℃
流 量 定 数	K50
取 付 方 向	下向き
カ ラ ー 表 示	白色
最 高 周 囲 温 度	39℃以上64℃未満
防 護 範 囲	r = 2.6 m 以下かつ 13㎡ 以下

5・製品仕様

(単位:mm)

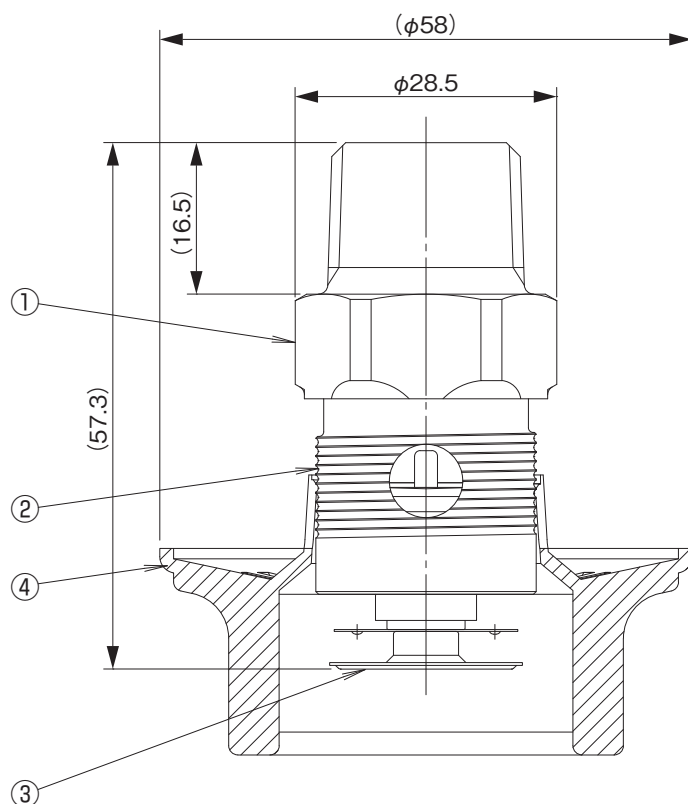


番号	部 品 名
①	本 体
②	フ レ ー ム
③	感 熱 板
④	保 護 ガ ー ド F

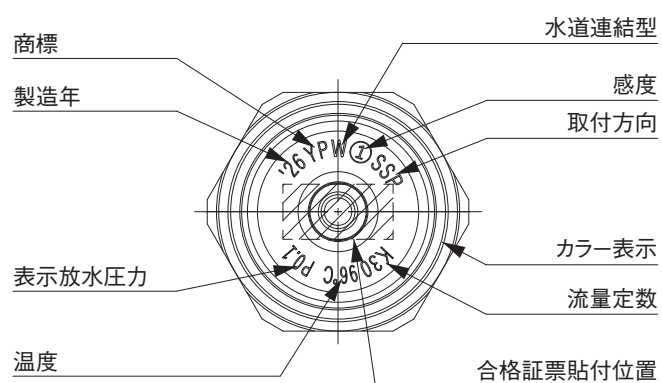


型 式	YSFP 26-30-72
型 式 番 号	ス第2026～14号
感 知 区 分	1種
標 示 温 度	72℃
流 量 定 数	K30
取 付 方 向	下向き
カ ラ ー 表 示	無色
最 高 周 囲 温 度	39℃未満
防 護 範 囲	r = 2.6 m 以下かつ 13㎡ 以下

(単位:mm)

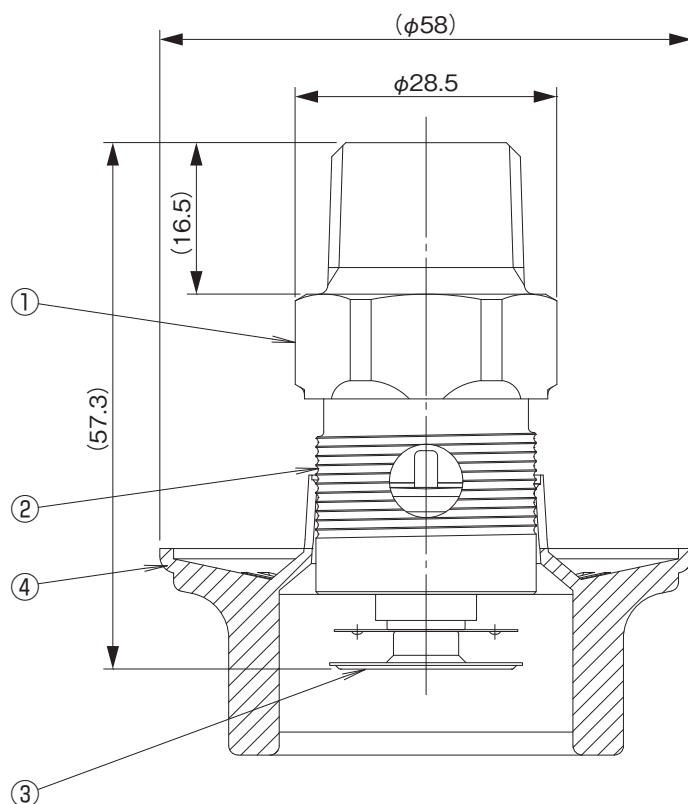


番号	部 品 名
①	本 体
②	フ レ ー ム
③	感 熱 板
④	保 護 ガ ー ド F

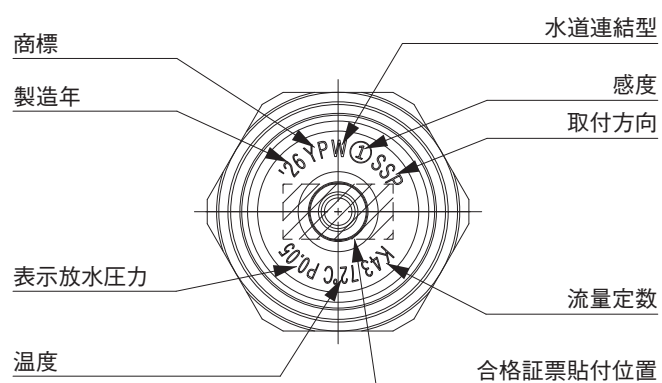


型 式	YSFP 26-30-96
型 式 番 号	ス第2026~15号
感 知 区 分	1種
標 示 温 度	96℃
流 量 定 数	K30
取 付 方 向	下向き
カ ラ ー 表 示	白色
最 高 周 囲 温 度	39℃以上64℃未満
防 護 範 囲	r = 2.6 m 以下かつ 13m ² 以下

(単位:mm)

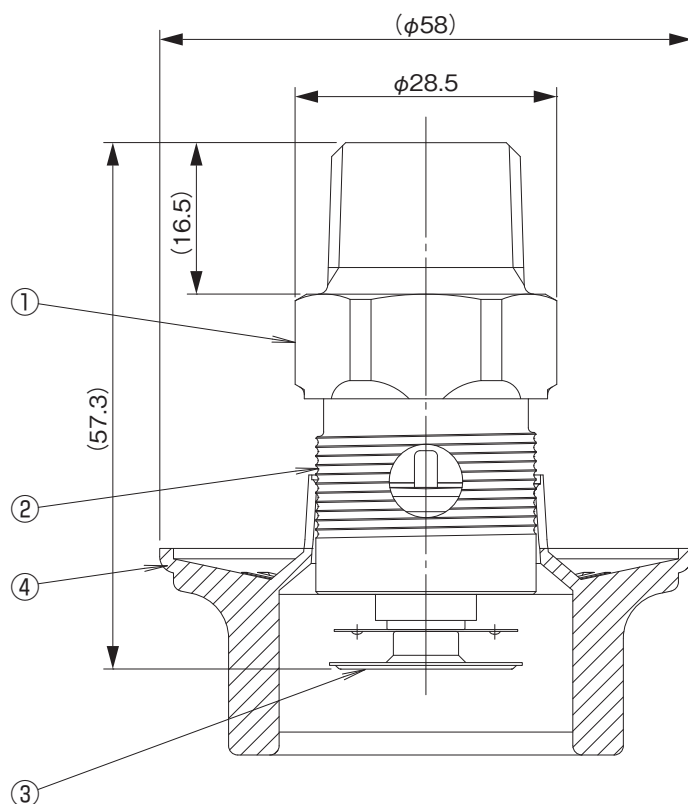


番号	部 品 名
①	本 体
②	フ レ ー ム
③	感 熱 板
④	保 護 ガ ー ド F

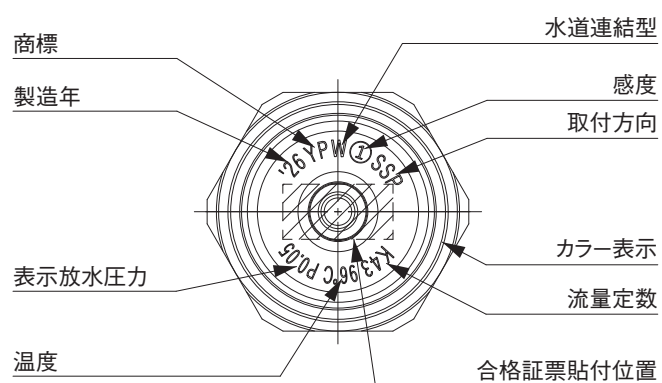


型 式	YSFP 26-43-72
型 式 番 号	ス第2026~16号
感 知 区 分	1種
標 示 温 度	72℃
流 量 定 数	K43
取 付 方 向	下向き
カ ラ ー 表 示	無色
最 高 周 囲 温 度	39℃未満
防 護 範 囲	r = 2.6 m 以下かつ 13m ² 以下

(単位:mm)



番号	部 品 名
①	本 体
②	フ レ ー ム
③	感 熱 板
④	保 護 ガ ー ド F



型 式	YSFP 26-43-96
型 式 番 号	ス第2026~17号
感 知 区 分	1種
標 示 温 度	96℃
流 量 定 数	K43
取 付 方 向	下向き
カ ラ ー 表 示	白色
最 高 周 囲 温 度	39℃以上64℃未満
防 護 範 囲	r = 2.6 m 以下かつ 13㎡ 以下



ヤマトプロテック株式会社

本 社 東京都港区白金台5-17-2

<https://www.yamatoprotec.co.jp>



お問い合わせは、
二次元バーコードを
読み取って
アクセスしてください。